

矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.5



発行日：平成30年12月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第50回山部会WGを開催しました！

12月7日(金)に第50回山部会WGが豊田市にて開催されました。今回は、通常の山部会のテーマとともに9年間の活動に関する意見交換を行いました。豊田市より森づくりに関する進捗状況(人材育成手法)、信州大学より根羽村における林道が及ぼす生物多様性について話題提供いただき、意見交換を行いました。

8日(土)のフィールドワークでは、豊田市下山地区で活動する「神殿の森づくり」の森林整備を学ぶとともに、岡崎市の「森の健康診断報告会」に参加しました。

日時：平成30年12月7日(金)～8日(土)
場所：(WG)豊田市下山交流館第11会議室 (フィールドワーク)豊田市・岡崎市
参加者：(WG)11名 (フィールドワーク)13名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 山部会9年間の活動と成果

9年間の活動を振り返ると、当初は何をしてよいかかわからないまま集まっていた。次第に参加者が減っていき、これはまずいということで、議論を重ねて平成24年5月に『出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有』を整理し、人と山村の課題では、「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」の2つの解決手法、森林の課題では、「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の2つの解決手法が抽出され、主担当を選出して取り組んできました。今回のWGでは、参加者全員で活動を振り返り、これまでに「できたこと」「もう少しでできたこと」「できなかったこと」について、意見交換を行いました。



2. 流域圏担い手づくり事例集について

現在、「流域圏担い手づくりⅡ」の作成に向けて対象団体を絞り、取材を行う段階となっています。現段階の取材先候補は以下の通りです。今後も取材をすすめ、読み合わせ会にむけたとりまとめを進めていきます。

【山の関係団体】 16団体

- ・鷲流峡(がりゅうきょう)復活プロジェクト ・つくラッセル ・正晴会 ・伊熊堂農クラブ ・NPO法人マルベリークラブ中部
- ・すぎん工房 ・畦道 ・三州しし森社中 ・奏林舎 ・間伐こもれび会 ・ウッドデザインパーク ・岡崎市宮崎財産区
- ・有限会社オフィスマッチングモウル ・石原林道協議会 ・ぬかたブランド協議会 ・ぬかた木材製材業組合

【川の関係団体】 8団体

- ・根羽川漁業協同組合 ・愛知・川の会 ・岩本川創遊会 ・枝下用水120年史編集委員会 ・原田裕保氏 ・内藤連三氏
- ・おとがわ!ンダーランド ・安城市矢作川くだり実行委員会

3. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域林業担い手(森林技能員)100人ヒヤリングは、中堅技術者(就労4年～54歳未満)の離職を深刻な問題と捉え、その実態の把握と改善の糸口をつかむのが目的です。昨年度から始まったこの活動も半数が終わり、助成をいただいた「緑の水の森林ファンド(国土緑化推進機構)」への中間報告を済ませたところです。これから残りのヒヤリングを進め、次年度最終報告をしたいと考えています。

【提案】

この成果の報告会を、2019年夏ごろに矢作川流域圏懇談会として開催することを提案します。その報告会は、山部会9年間の活動報告会として位置づけ、流域圏担い手づくり事例集、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの成果についても、同時に発表するものとして考えています。

4. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の3項目について、情報共有と意見交換を行いました。

◆豊田市の森づくり(人材育成事業)に関する進捗状況(豊田市産業部 鈴木晴彦様、宮口顕汰様)

豊田市(新・森づくり構想)では、森林施業プランナーの育成手法として、豊田市、岐阜県森林文化アカデミー、豊田森林組合の3者が連携協定を締結し、現在6名が2年間の研修を行っています。

◆森林路網がスギ人工林内の光環境と植物多様性に及ぼす影響(信州大学農学部 城田徹央様)

根羽村における調査の結果、森林路網は植物種の多様性を高めることがわかりました。また、光環境の向上から、外来種が侵入しやすいものの、幅員が狭いことで優占が抑えられ、植物種の多様性の低下には影響しないことがわかりました。

◆無限の可能性を秘める「木軸立体」の紹介(基デザイン研究所 筒井信之様)

2m程度の角材を金具を介して組み立てるものです。木の駅などの間伐材の有効活用に提案したいと考えています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山部会 9 年間の活動と成果

- ・ 矢作川流域の生活も 50 年が過ぎたが、懇談会員にならなければ、知らないことばかりだったと思う。いろいろ勉強することができて、今では流域での暮らしを誇らしく感じている。(沖)
- ・ 流域連携アイテムに「流域ものさし」があるが、都会のものさし、田舎のものさし、つまりは山川海のものさしが違うことに気づいた。その違いを共有できるものさしが欲しいと考えている。(近藤)
- ・ 9 年かけて、山川海それぞれの土台ができたと感じる。今後は、横断的につながることを望んでいる。(高橋)
- ・ 矢作川の活動を学生が学び、社会(就職活動等)に伝えて行くことが我々大学側の役割だと考えている。(城田)
- ・ 他部会とのコミュニケーションについては、課題が残っているため、今後も取り組んでいきたい。(蔵治)
- ・ 事例集の活動では、流域のさまざまな団体を発掘することができ、つながりがもてたことは大きな成果だ。(洲崎)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・ 宮崎財産区、石原林道協議会、ぬかたブランド協議会、ぬかた木材製材業組合の 4 団体については、取材すべき団体と考えられるため、今年度に取り扱えなくても次年度の候補にしたい。(洲崎)
 - ▶ 宮崎財産区は、400ha 以上の森林を管理する、岡崎市で最も古く活気のある財産区である。(眞木)
 - ▶ 宮崎財産区とぬかた木材製材組合の 2 団体は、地元である私が担当したいと考えている。(沖)
- ・ 1 月後半に「読み合わせ会」を行う予定であるため、取材と執筆を進めてほしい。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・ 9 年間の実績はたくさんあるので、それらを報告することは、流域圏内外への発信として、とても重要なことだ。ただ、山部会だけで行うのではなく、懇談会全体の活動報告会に含まれることが望ましいと思われる。(蔵治)
 - ▶ この懇談会には、三河湾や伊勢湾の活動の中心人物も含まれることから、次年度は皆で開催するイベントを 1 回程度行えるとよい。(高橋)
 - ▶ 山川海と一緒にイベントを行う時、報告の対象は誰かを考える必要がある。(近藤)
- ・ 流域圏懇談会の報告会は、対象が流域市民にできる。しかし、林業担い手 100 人ヒヤリングの結果報告は、どちらかというと流域の林業に関わる市民である。(洲崎)
- ・ 林業担い手 100 人ヒヤリングの結果報告は、流域圏懇談会の報告会とは別物として取り扱うことにしたい。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

《豊田市の森づくり(人材育成事業)に関する進捗報告》

- ・ この人材育成にどのくらいの予算を投じているのか。また、森林組合の負担はどれくらいか。(眞木)
 - ▶ ドイツ・スイスでは、行政の 100%補助で人材を育成している。それは見習うべきことで、豊田市においても最大級の補助率を適用している。また、森林組合の負担は多少ある。(鈴木)
- ・ 現在のリーダ候補生は 6 名だが、将来的にはどうするのか。また、市内の担当エリアはどうするか。(城田)
 - ▶ 将来 10 名のコア人材を育てたいと考えている。それから、エリア分けについては、豊田市 6 地区に対して一人ずつ配置して、コントロールタワーを担っていただこうと考えている。(鈴木)
- ・ 豊田市は森林組合に飛び込んで指導してくれる。なかなかそこまで介入する行政はない。(眞木)
 - ▶ 人口減少化社会の中で、公共ができる領域は確実に減っている。森林環境譲与税が騒がれているが、これは我々の財源の 3 分の 1 にも満たない。そんな中、人材育成は喫緊の課題として取り組んでいる。(鈴木)
- ・ 豊田市は、全国的にみても突出している先進地だ。(蔵治)
 - ▶ 岐阜県飛騨市では広葉樹の森づくりを宣言している。また、郡上市では森林保全のガイドラインを作成し、防災研修を重ねている。市としては、他の先進地と連携しながら行政のレベルアップをめざしている。(鈴木)

◆神殿の森づくり会議の現場見学

【案内人】代表松田敏明様(上)、加藤鎌一様(下)

【場所】豊田市神殿町地内

豊田市の森づくり会議は、平成 20 年度に策定された「豊田市森づくり基本計画」において、森林所有者が町や自治区の範囲で、森づくり団地の設定、境界確認作業、森林整備の方向性を話し合うために設立された組織です。松田様と加藤様に、神殿町の森づくり団地、補助金を活用した林道などをご紹介いただき、先進的な森づくりの現状を学びました。



◆おかざき森の健康診断報告会への参加

森の健康診断は、矢作川流域から全国に広がった市民参加型の人工林の健全度を把握する取り組みです。岡崎ではこれまでに H20、H25、H30 の 3 回実施され、市域の人工林についての把握が行われました。今回は、活動の集大成として、市民のみならず、県内外からの参加者もみられました。



今後のスケジュール(予定)

山部会まとめの会は、1 月 29 日(火) 岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

